

YAMAHA SILENT ENSEMBLE PIANO

サイレントアンサンブルピアノ EA1



取扱説明書

ごあいさつ

このたびは、ヤマハサイレントアンサンブルピアノEA1をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。本製品を正しくお使いいただくために、お使いになる前に、本書をよくお読みください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

本製品について

EA1は、ピアノの音を消してピアノ電子音をヘッドフォンで聴きながら演奏できる「サイレント機能」をはじめ、ピアノの演奏を録音・再生できる「自動演奏機能」、内蔵電子音源の豊富な音色を使って様々な楽器パートを加えて演奏できる「アンサンブル機能」、さらにはCD（コンパクトディスク）の再生機能など多彩な機能を備えた、エンターテインメント性にあふれるグランドピアノです。またアンプとスピーカーを搭載しているため、別途オーディオ機器を用意する手間もなく、1台で演奏のモニターまでが可能です。本書を参考にして十分にご活用いただき、ピアノを中心とした新しく幅広い音楽の世界をお楽しみください。

●付属品をご確認ください

- *リモコン.....1個
- *リモコン用電池.....単3×2本
- *コントロールユニット取付用金具.....1個
- *ステレオヘッドフォン.....1個
- *試聴用フロッピー.....1枚
- *録音用フロッピー（ブランクディスク）.....1枚
- *スマートキー対応フロッピー.....1枚
- *ピアノソフトプラスオーディオCD.....1枚
- *取扱説明書（本書）

●設置について

設置にあたっては、以下の場所を避けてください。

- ・窓ぎわなど、直射日光のあたる場所
- ・暖房器具のそばなど高温の場所、多湿の場所
- ・ホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

煙やスプレーなどがかからないようにしてご使用ください。

目次

必ずお読みください

安全上のご注意	6
本機の取り扱いについて	8
取付と接続について	10
各機器の役割について	12
CDの取り扱いについて	13
フロッピーの取り扱いについて	14
各部の機能と名称	
コントロールユニット (フロントパネル)	16
コントロールユニット (リアパネル)	17
スイッチボックス	17
リモコン	18
アンプユニット	19
フットコントローラー端子	19

よりよくご活用いただくための基礎知識

本機には3つのドライブがあります	20
“フォーマット”という言葉には3つの意味があります	21
メモリディスクとフロッピーの使いこなしについて	22
LR録音機能をレッスンに活用しましょう	23
内蔵の電子音源について	24
アンサンブル曲とは	25
トラック、パート、チャンネルとは	26
本機で再生できるソフトについて	27
操作ページの見方	28

基本操作を覚えましょう

1: 演奏や再生/録音に関わる基本操作

電源の入れ方・切り方	(電源ON/OFF)	30
ドライブの選び方	(ドライブ選択)	31
メトロノームを鳴らす	(メトロノーム機能)	32
様々な設定を工場出荷時の状態に戻す	(リセット機能)	34

2: 演奏

ピアノの音を消して演奏する	(サイレント機能)	36
ピアノで内蔵音源 (XG音源) の音色を使って演奏する	(音色モード/音色機能)	37

3: 再生

メモリディスクの曲を再生する	(再生の基本操作)	38
フロッピーの曲を再生する	(再生の基本操作)	39
付属のスマートキー対応フロッピーを再生する	(スマートキー機能)	40
付属のピアノソフトプラスオーディオCDを再生する	(ピアノソフトプラスオーディオ)	42
市販のオーディオCDを再生する	(CDの再生)	44
再生音の音量を調節する	(音量調節)	45
内蔵電子音源の音程をピアノに合わせる	(TGマスターチューン機能)	46
オーディオCDのピッチを一時的に調節する	(オーディオCDピッチアジャスト)	47

4: 録音

新品のフロッピーを本機で使えるようにする	(フロッピーのフォーマット)	48
ピアノの演奏を録音する	(録音の基本操作)	50

様々な機能を活用してみましょう

1: 消音演奏

消音演奏時のピアノ電子音に残響効果を加える	(リバーブの設定)	54
消音時の自動演奏で鍵盤を動かさないようにする	(鍵盤動作のキャンセル)	55
ピアノ電子音の発音数を切り替える	(最大同時発音数の切り替え)	56
内蔵音源 (XG音源) とピアノ電子音を同時に発音する/発音しないを切り替える	(音色モード・音色機能)	57

2: 再生

アンサンブル曲を再生する	(アンサンブル曲の再生)	60
LR曲を片手パートずつ再生する	(パートキャンセル)	61
ペダル効果なしで再生する	(ペダルキャンセル)	62
テンポを変えて再生する	(テンポ調節)	63
移調して再生する	(移調調節)	64
早戻し・早送りする	(早送り・早戻し/サウンド早送り・早戻し)	65
聴きたい曲をすばやく選曲する	(ダイレクト選曲)	66
全曲を繰り返し再生する	(全曲リピート)	67
全曲をランダムな曲順で再生する	(ランダムリピート)	68
好きな1曲だけを繰り返し再生する	(1曲リピート)	69

曲中の聴きたいところを頭出しする	(ダイレクトサーチ)	70
曲中の好きな部分だけを繰り返し演奏する	(A-Bリピート)	71
曲中の好きなところに早戻しする	(リターン&ストップ)	72
ピアノパートとアンサンブルパートの音量バランスを調節する	(TGマスターバランス)	73
ピアノパートを別の音色で再生する	(ピアノパート音色変更)	74
アンサンブルパートの音色・音量を変更する	(アンサンブルパート音色変更)	75
アンサンブルパートをピアノで再生する	(ピアノパートセレクト)	76
ペダルカウント録音曲を弾き始めの合図をいれて再生する	(ペダルカウントの再生)	77
3: 録音		79
左手・右手のピアノパートを別々に録音する	(LR録音)	80
再生時に弾き始めの合図が入るように録音する	(ペダルカウント録音)	82
音域を分けて左手・右手のピアノパートを同時に録音する	(LRスプリット録音)	84
録音済みのペダル効果を録り直す	(LRセットアップ)	85
録音済みの曲を新たに録音し直す	(再録音)	86
アンサンブル曲を録音する	(アンサンブルパート録音)	88
メトロノームに合わせて録音する	(メトロノーム録音)	90
リズムパートなどを正確なタイミングで録音する	(クオンタイズ機能)	92
リズムパートを録音する	(リズムパート録音)	94
録音済みのパート(トラック)に重ね録りする	(オーバーダビング機能)	96
アンサンブルパートをピアノパートに変更する	(ピアノパートセット録音)	98
録音した曲の音色や音量を後から変更する	(録音後の音色変更)	99
録音した曲のテンポを後から変更する	(録音テンポ変更)	100
録音した曲やメモリディスク/フロッピーに名前を付ける	(タイトル入力)	102
4: 編集		105
2つのトラックのデータを1つにまとめる	(トラックミックス)	106
あるトラックのデータを別のトラックに移す	(トラック移動)	108
あるトラックのデータを別のトラックにコピーする	(トラックコピー)	110
いらぬトラックのデータを消す	(トラック消去)	112
トラックのデータを移動する	(トラック移動)	114
いらぬ曲を消去する	(曲消去)	116
メモリディスクの曲を複製する	(曲コピー)	118
フロッピーの曲を複製する	(曲コピー)	120
録音した曲を好きな順番に並び替える	(曲並び替え)	122
1個のメモリディスク全体をコピーする	(ディスクコピー)	124
フロッピー全体をコピーする	(ディスクコピー)	126
曲の録音タイプ(メトロノーム録音⇄時間録音)を変更する	(カウンター変更)	128
曲のフォーマット(E-SEQ⇄SMF)を変更する	(曲フォーマット変換)	130
フロッピーのタイプ(E-SEQ⇄SMF)を変換して別のフロッピーにコピーする	(ディスクタイプ変換)	132
5: タイマー再生		135
タイマーの時計を合わせる	(カレンダー機能)	136
タイマー再生する曲順をセットする	(グループ機能/チェインプレイ機能)	138
好きな時間に自動演奏をスタートさせる	(タイマープレイ機能)	140
電源オンと同時に自動演奏をスタートさせる	(オートスタート)	142
何分おきに1曲ずつ順番に自動演奏させたり、1曲だけで再生をストップさせる	(スペースプレイ)	143
6: MIDI楽器やパソコンとの接続		145
MIDI楽器やパソコンとの接続例		146
MIDI楽器やパソコンとつなぐと、どんなことができるの		147
ピアノパートの受信チャンネルを設定する	(Piano Rcv Ch)	148
受信データに対してピアノの発音タイミングを調整する	(Delay In)	149
他機器で作成したフロッピー再生時に、ピアノパートの再生チャンネルを指定する	(Import File)	150
再生時、ピアノパートを内蔵音源(XG音源)でも発音させる(発音させない)	(PianoPart ESBL Out)	151
本機の鍵盤演奏やアンサンブルパートをMIDI出力する	(MIDI Out)	152
鍵盤演奏データの出力内容を設定する	(KBD Out)	154
スタート/ストップなどのデータを送受信する	(Remote Out/In)	156
本機の鍵盤部と音源部を切り離す	(Local)	157
外部MIDI機器やパソコンから送信した曲データを本機で受信して記録する	(MDR:MIDIデータレコーディング)	158
パソコンとつなぐためのケーブル		159
付録		161
仕様		162
MIDIインプリメンテーションチャート		163
内蔵音源の音色一覧表		164
エラーメッセージ		168
FAQ(よくある質問)		169
故障かな?と思ったら		172
索引		174
保証とサービスについて		178

安全上のご注意

必ずお読みください

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると、生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れあり キャビネットをあけるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	---

△ 記号は、**危険、警告または注意**を示します。上記の場合、△は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、△は注意が必要なことを示しています。


⊘ 記号は、**禁止行為**を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。


● 記号は、**行為を強制または指示**することを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。


※お読みになった後は、使用されるかたがいつでも見られる所に必ず保管してください。


警告


この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。


 本機の内開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は、必ずお買い上げ店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。


 浴室や雨天時の屋外など、湿気の多いところで使用しない。また、本機の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
感電や火災、または故障の原因になります。

 使用中に電子音が出なくなったり、異常なおい煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。

 電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災の恐れがあります。

 手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の恐れがあります。

 電源プラグにホコリが付着している場合は、ホコリをきれいに拭き取る。
感電やショート of の恐れがあります。

 本機の内開けたり液体が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。

⚠ 注意

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性があります。

❌ 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものを乗せない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

❗ 電源プラグを抜く時は、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災が発生する恐れがあります。

❌ タコ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱したりすることがあります。

❌ 電源コードやプラグが痛んだときは使用しない。
また、長時間使用しないときや落雷の恐れがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電、ショート、発火などの原因になります。

❗ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。
感電または機器の損傷の恐れがあります。

❌ 直射日光のあたる場所や暖房器具の近くなど、極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またホコリや振動の多いところで使用しない。
外装が変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。

❌ テレビやラジオなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。

❌ 不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がケガをしたりする原因になります。

❗ 本機を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードを傷めたり、お客様が転倒したりする恐れがあります。

❗ 本機を移動するときは、引きずらない。
床を傷つける恐れがあります。

❗ 本機を移動するときは、スピーカーに力がかからないようにして下さい。

❗ 本機を移動するときは、手や足を挟まないようにする。
ケガをする恐れがあります。

❗ 本機を使用しないときは、鍵盤蓋を閉める。鍵盤蓋の開閉は、両手で静かに行う。また、自分や周りのかたが、不用意に鍵盤蓋に触れないようにする。
鍵盤蓋に手や指をはさみ、ケガをする恐れがあります。

❗ 地震のときは、本機から離れる。
地震による強い揺れで本機が動いたり転倒したりして、ケガをする恐れがあります。

❌ 本機の上に乗ったり、重いものを乗せたりしない。
また、スイッチやツマミ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本機が破損する原因になります。

❌ 大きな音量で長時間使用しない。
聴覚障害の原因になります。特に、ヘッドフォンを使用する場合はご注意ください。
万一、聴力低下や耳障りを感じたら、専門の医師にご相談ください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

*この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

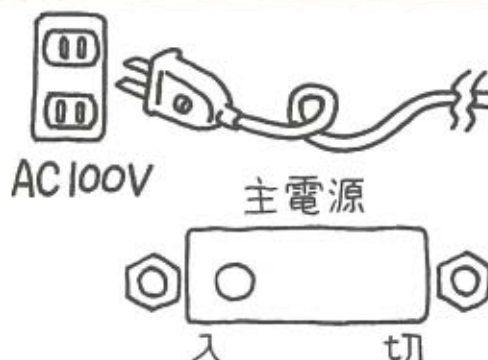
本機取り扱いについて

必ずお読みください

●電源について

必ずAC100V(50Hzまたは60Hz)のコンセントに接続してください。AC100V以外のコンセントには接続しないでください(本機は日本国内仕様です)。

長期間ご使用にならない時は、主電源スイッチを「切」にした後、電源プラグをコンセントから抜いてください。



●コントロールユニット／アンプユニット／スピーカー／リモコン

コントロールユニット／アンプユニット／スピーカー／リモコンに無理な力を加えないでください。

コントロールユニットの上に物を置かないでください。

スイッチ、ボタンなどを無理やり押したりしないでください。

コントロールユニットやアンプユニットを開けて内部に触れると、故障や感電事故を起こすことがあります。ユニット内に物が入ってしまった時などは、まず電源コードを抜き、販売店にご連絡ください。



●コード類について

コード類の上に物を置いたりしないでください。

コード類を抜き差しする時は、必ず電源を切ってから行ってください。

コード類を抜く時は、断線やショートを防ぐため、必ずプラグを持って行ってください。



●こんな時には？

落雷のおそれがある時は？

早めにコンセントから電源プラグを抜いてください。



ピアノの外装を磨く時は？

表面についたほこりは、ピアノ用の羽毛かやわらかな布で軽くから拭きします。鏡面艶出し塗装のピアノは、専用のヤマハピアノユニコン（別売）でムラなく拭きあげてください。市販の化学雑巾や外装手入れ剤は成分が分かりませんので、使用はさけてください。



水に濡れた時は？

万一雨が降ったり、水をこぼしてしまった時は、すぐ電源プラグを抜き、販売店にご連絡ください。また煙やスプレーなどがかからないよう、ご注意ください。



他の電気機器への影響は？

本機の近くでラジオ・テレビなどを同時に使用すると、ラジオ・テレビ側で雑音などが生じることがあります。十分離してご使用ください。



十分離して使用



移動する時は？

電源プラグを抜き、コード類をすべてはずしてから、移動します。ピアノの運搬・移動は、専門の業者に依頼することをおすすめします。



故障かな？と思ったら

電源やコード類がきちんと接続されていないか、意外なところで操作を誤っている場合があります。「故障かな？と思ったら」(P172)でご確認ください。

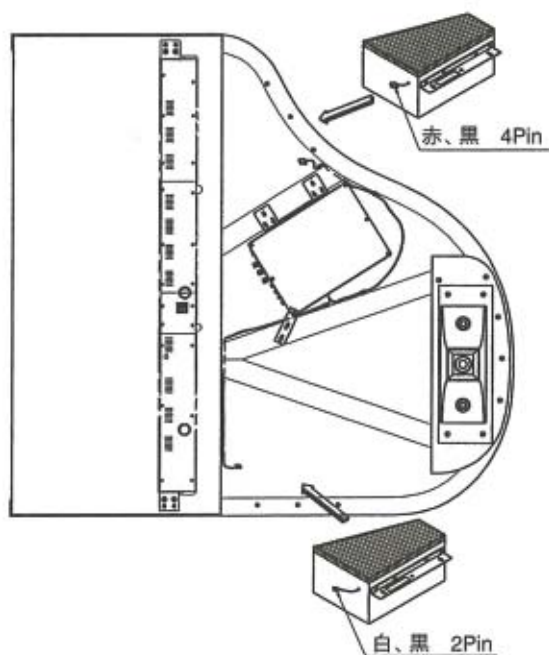


取付と接続について

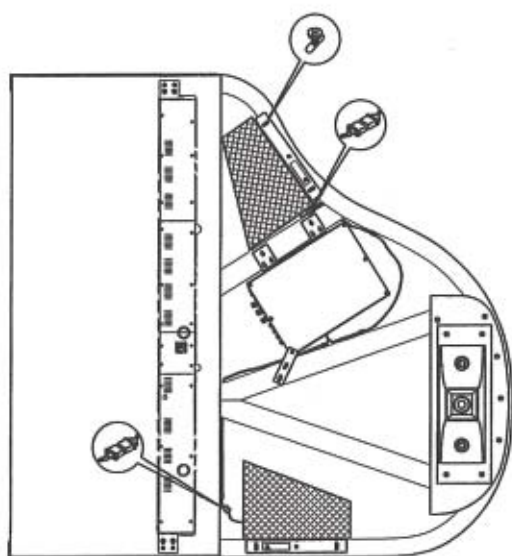
1. スピーカーの取付

高音上側(赤黒4pin)／低音下側(白黒2pin)

① 同梱ネジM5×14で3箇所ずつネジ止めて下さい。

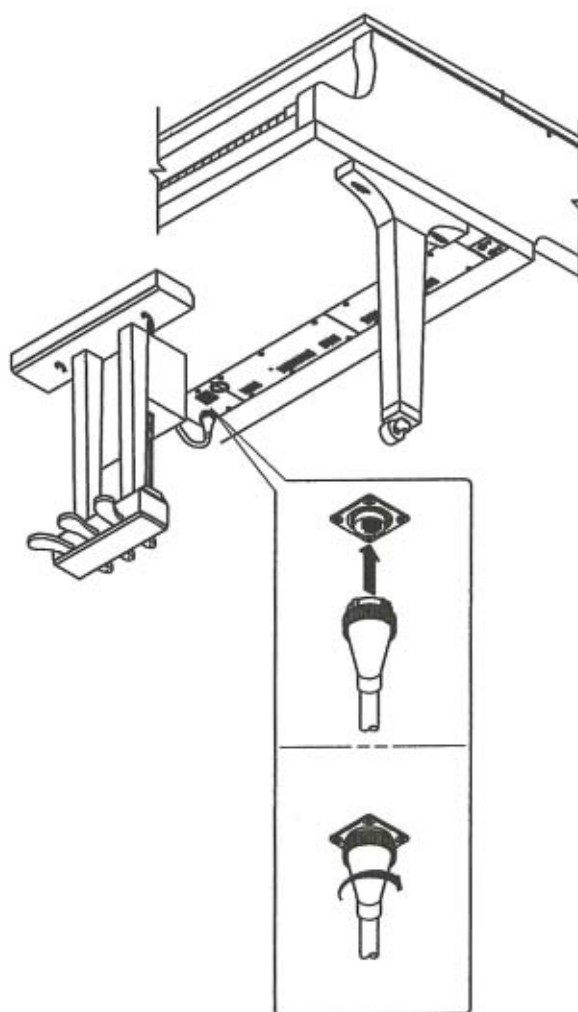


② 取付後、コネクターを差し込んで下さい。



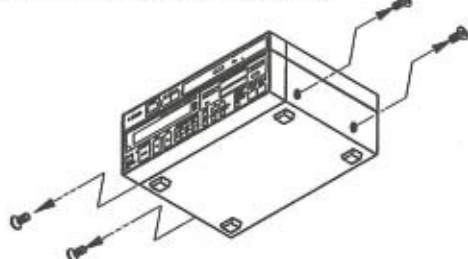
2. ペダルの取付

ペダルをピアノ本体に取付け後、向きに合わせてケーブルをはめ込み、リングを回して固定して下さい。

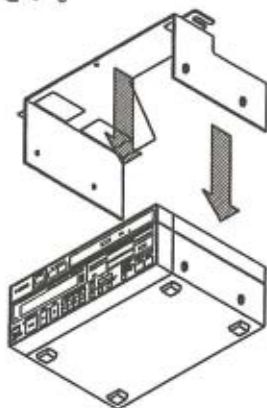


3.コントロールユニットの取付

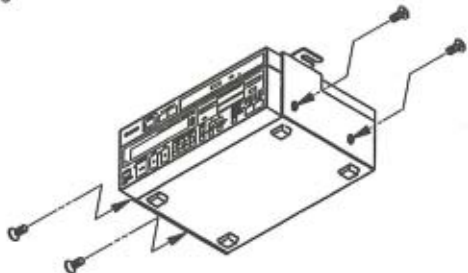
- ①コントロールユニット側面下側の4個所の皿子ネジM4×12を外して下さい。



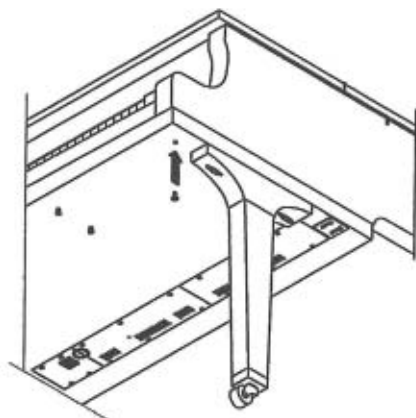
- ②ハンガーをコントロールユニットにはめこみ、穴を合わせて下さい。



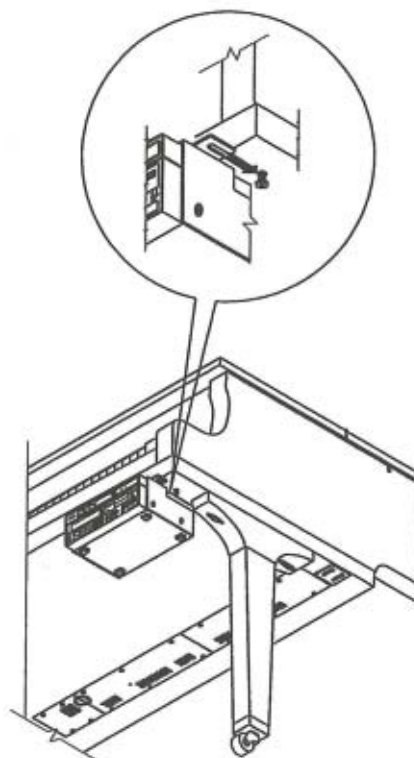
- ③①で外した皿子ネジM4×12で4個所を固定します。



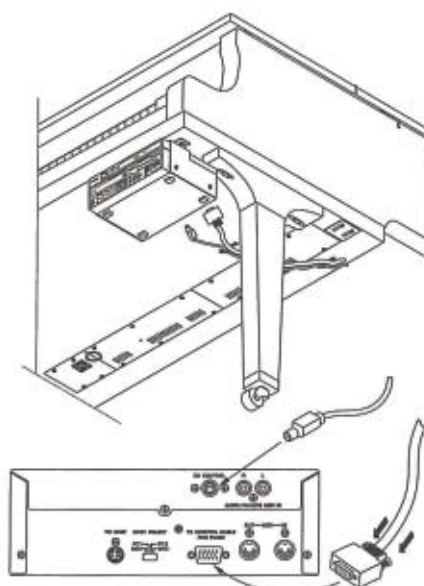
- ④高音側棚下の3個所の鬼目ナットに同梱バンドM5×12を3～4cmネジ込んで下さい。



- ⑤④で取付けたネジ部に、ハンガーの長孔、だるま孔を引っ掛け、奥側に押し込みネジ止めして下さい。



- ⑥コントロールユニット取付後、ケーブルを差し込みます。上側のCD CONTROL端子に細いケーブルを向きを合わせて差し込んで下さい。下側のTO CONTROL CABLE FOR PIANO端子に太いケーブルを向きを合わせて差し込み、2箇所ネジ止めして下さい。



各機器の役割について

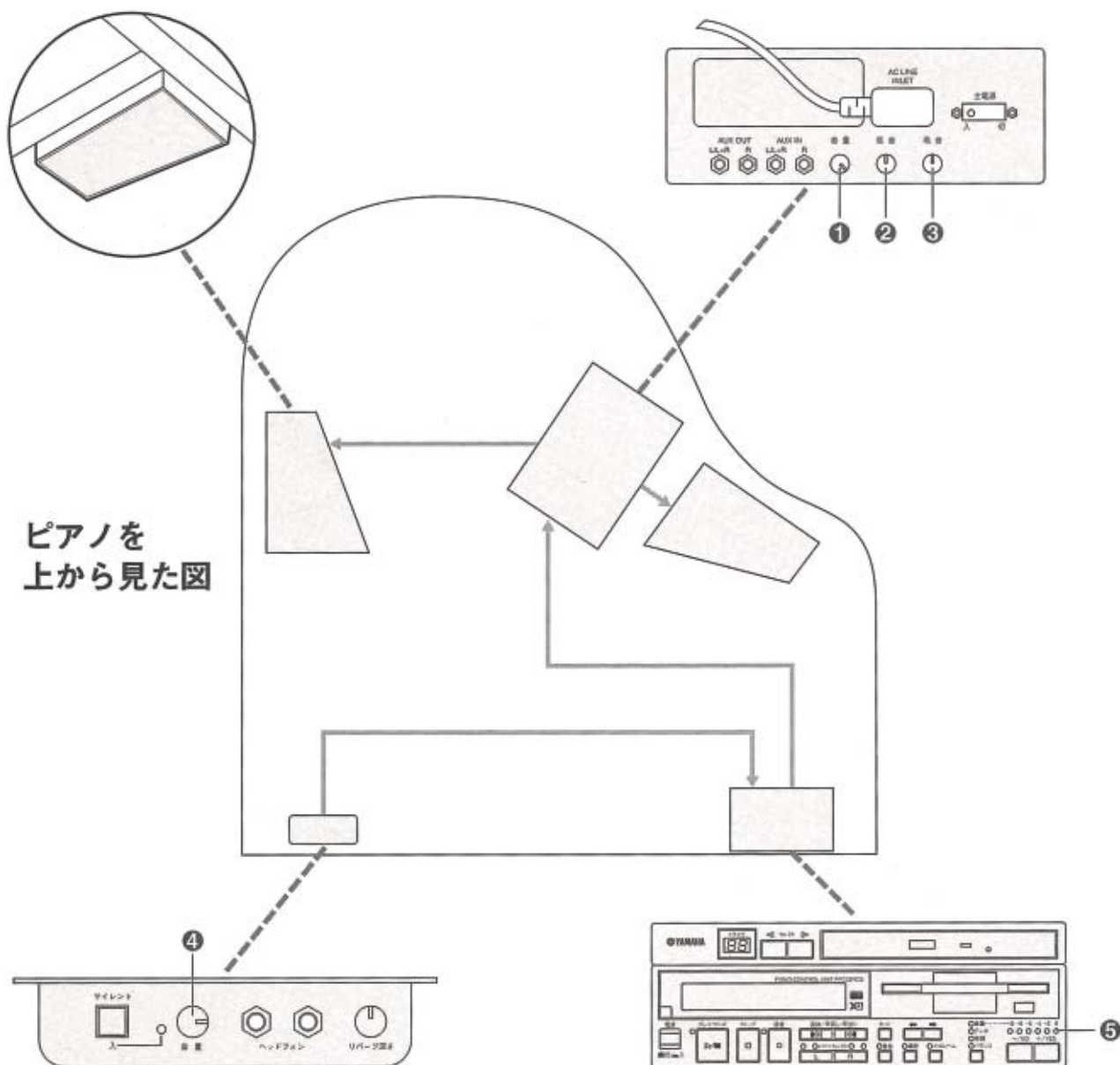
必ずお読みください

スピーカー

- アンプユニットを通して送られてきた内蔵電子音源やCDの音をモニターできます。
- 左右に1台ずつ装着されています。

アンプユニット

- 電子音源やCDの音をスピーカーに送ります。
- スピーカーから出る音の音量や音質が調整できます。
- [主電源スイッチ]が装備されています。



ピアノを上から見た図

スイッチボックス

- ピアノの音を消して演奏できるサイレント機能を使うためのスイッチボックスです。
- [ヘッドフォン端子]が装備されています。

コントロールユニット

- ピアノ演奏の録音や再生、CDの再生など、様々な設定がおこなえるコントロールユニットです。
- 操作は、本体のパネルおよびリモコンでおこなえます。

[標準的な音量バランス]

- アンプユニットの音量ツマミ:最大①
- アンプユニットの低音ツマミ:12時の位置②
- アンプユニットの高音ツマミ:12時の位置③
- スイッチボックスの音量ツマミ:3時の位置④
- コントロールユニットの音量:標準(0)⑤

CDの取り扱いについて

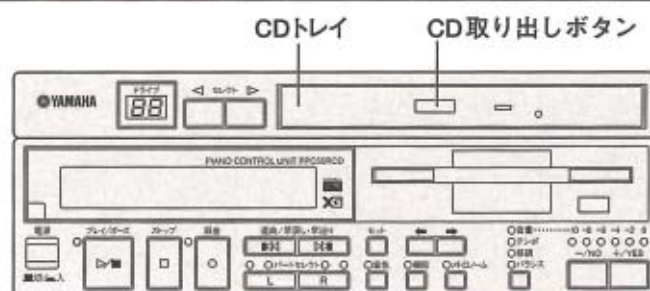
必ずお読みください

●CDの取り扱いについてのご注意

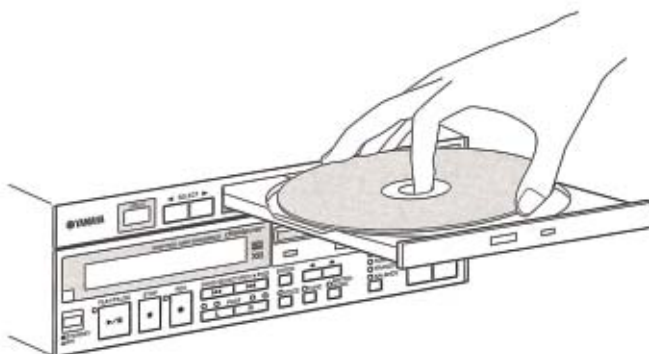
- 演奏面（文字の書かれていない面）には触れないでください。
- 極端に高温の場所や湿気の多い場所に放置しないでください。
- 紙やシールを貼ったり、字を書いたりしないでください。
- 折り曲げたり、傷つけたりしないでください。
- お手入れは、柔らかい布で中心から外の方へ、軽く拭くようにしてください。
- 演奏が終わったらCDを取り出し、CDトレイを閉めておいてください。

●CDの入れ方

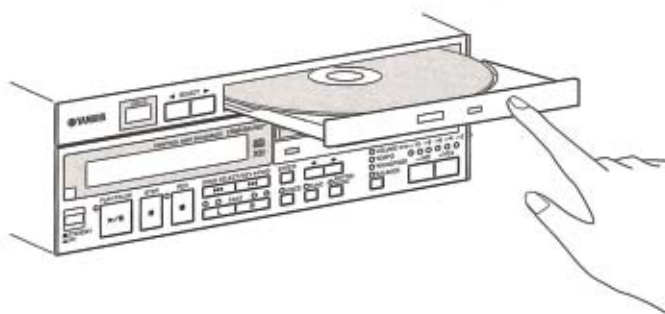
- ①電源を入れた状態で「CD取り出しボタン」を押します。
CDトレイが約1.5センチ出てきます。



- ②トレイを手前いっぱい引き出し、CDをトレイの上に置きます。
CDは、必ずラベル面（文字のある面）を上にして置いてください。
またトレイ中央部の丸い突起にカチッと音がするまではめこんでください。



- ③カチッと音がするまでトレイを中へ押し込み、完全に閉めます。



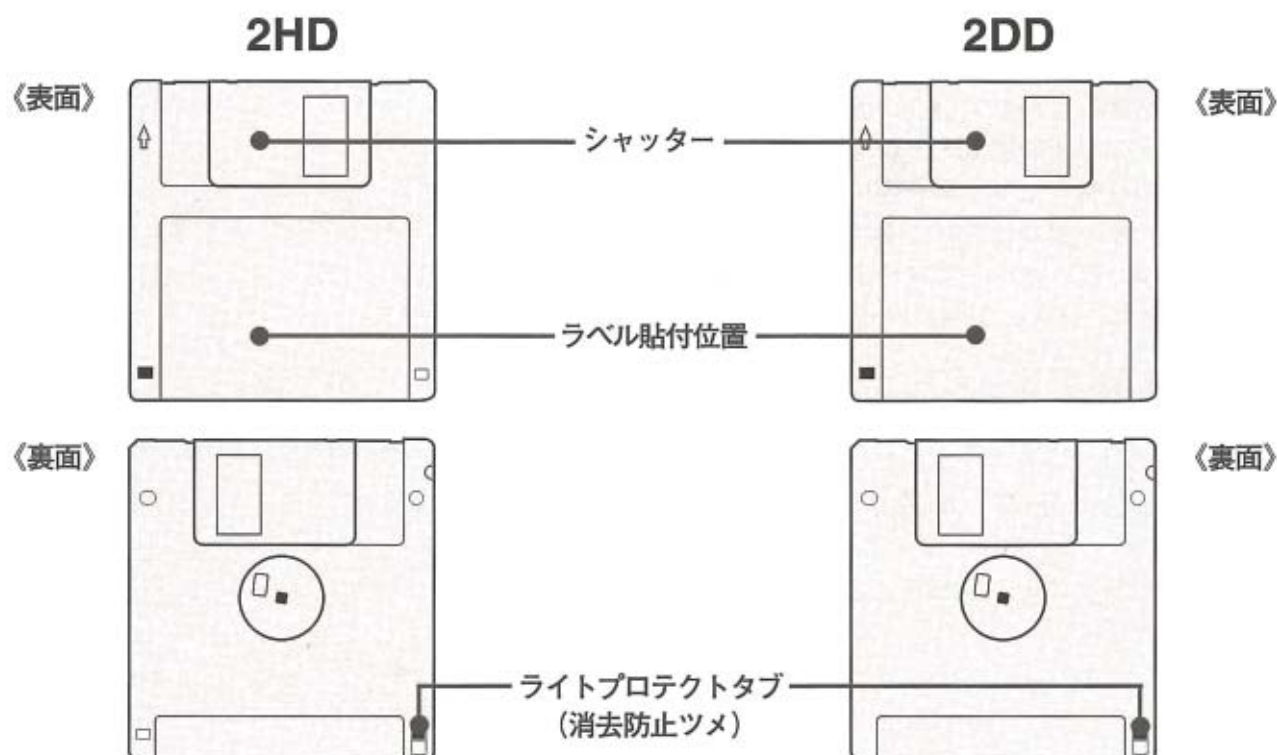
●CDの取り出し方

- ①電源を入れた状態で「CD取り出しボタン」を押します。
CDトレイが約1.5センチ出てきます。
- ②トレイを手前いっぱい引き出し、トレイからCDをはずします。
- ③カチッと音がするまでトレイを中へ押し込み、完全に閉めます。

●本機のCDトレイ部は非常に精密に設計されています。強い衝撃を与えないなど、取り扱いには十分ご注意ください。

フロッピーの取り扱いについて

必ずお読みください

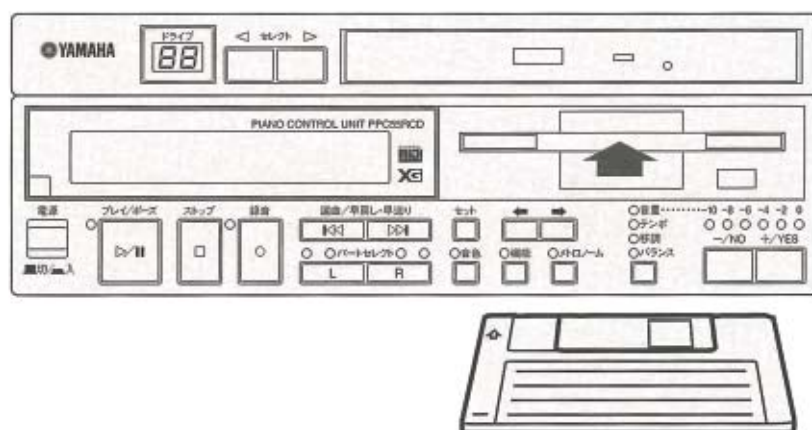


●フロッピーディスクの種類

市販の3.5"マイクロフロッピーディスク(2HDまたは2DD)をご使用ください。

●フロッピーディスクの挿入

図のようにフロッピーの表面(シャッターに文字が書かれている方)を上にして、カチッと音がするまでディスク挿入口にていねいに差し込みます。特に、上下方向に無理な力がかからないよう、必ず水平方向に静かに挿入して下さい。



●フロッピーディスクを取り出す時のご注意

- ・[フロッピー取り出しボタン]をしっかりと正確に押し、フロッピーが完全に出たことを確認してから取り出してください。
- ・[フロッピー取り出しボタン]を中途半端に押したり、あわてて押すと、フロッピーが途中で引っかかり、取り出せなくなる場合があります。ここで無理にフロッピーを取り出そうとすると、フロッピーがこわれたり、サイレントアンサンブルピアノが故障する原因になります。このような場合は、もう一度[フロッピー取り出しボタン]をしっかりと正確に押し直して、取り出してください。

■以下の場合、決してフロッピーを取り出さないでください。

- ・録音中、ディスク機能の実行中、編集後の保存中、トラック機能の実行中
- ・その他一般に「ディスクトリダサナイデ!」「シバラクオマチクダサイ」が表示されたり、本書に「フロッピーを取り出さないでください」と記載してある場合

■電源を切る時は、フロッピーをあらかじめ取り出してから行ってください。フロッピーを入れたまま長期間放置すると、ディスクが汚れ、録音や再生などにエラーが生じる原因になります。

●磁気ヘッドの定期的なクリーニング

- ・フロッピーのデータを読み取る磁気ヘッドは、長期間使用しているうちにフロッピーの磁性粉で汚れて、録音や再生などにエラーが生じることがあります。磁気ヘッドは、定期的に(1ヵ月に1回程度)クリーニングすることをおすすめします。
- ・磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をご使用ください。なお、本書巻末のヤマハサービス拠点で、ヤマハ推奨の「乾式ヘッドクリーニングディスク」(ZX000060 ¥1,120[税別])をお求めいただくこともできます。

●フロッピーディスクの取り扱いと保管

フロッピーの中には演奏を記録する磁性体が入っています。磁性体および本機の磁気ヘッドを保護するため、以下の点にご注意ください。

- ・フロッピーのシャッターを開けて、磁性体にふれないでください。
- ・保管したり持ち運ぶ場合は、必ず市販のケースに入れて保管し、落としたり、物を乗せたり、折り曲げたりしないでください。また、フロッピー内部に水やホコリが入らないようにしてください。
- ・磁気を帯びたもの(テレビやスピーカーなど)は近づけないでください。
- ・直射日光の当たる場所や、特に高温/低温の場所、多湿の場所などに置かないでください。
- ・フロッピーにはラベル以外のもの(メモなど)を貼らないでください。また、ラベルは所定の位置にはがれないようにしっかりと貼ってください。
- ・自作ソフトについては「ディスクコピー機能」(P126)を使ってディスクの複製を作っておくことをおすすめします。

●誤消去防止

フロッピーには誤ってデータを消してしまうことがないように、ライトプロテクトタブ(誤消去防止ツメ)が付いています。大切なデータの入っているフロッピーは、タブをオン(窓が開いた状態)にして、録音やフォーマットなどができないようにしてください。

プロテクトオン(録音不可)



プロテクトオフ(録音可)

※市販フロッピーの中には粗悪品もございます。メーカー名をお確かめの上、お求めください。また、変形しているフロッピー(シャッターやフロッピー本体)は、絶対に使用しないでください。

●フロッピーディスクドライブの動作音について

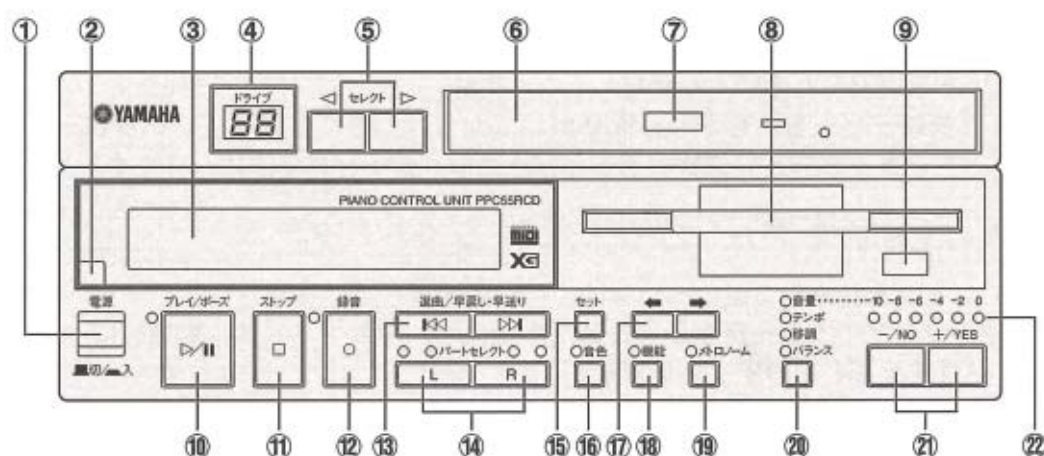
フロッピーを使用した選曲時や録音待機時に、フロッピーディスクドライブから「カチャカチャ」という音が聞こえる場合があります。これはディスクを読み書きするための動作音です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

●録音用の新しいフロッピーは、必ずフォーマットしてから使います(P48参照)。

各部の名称と機能

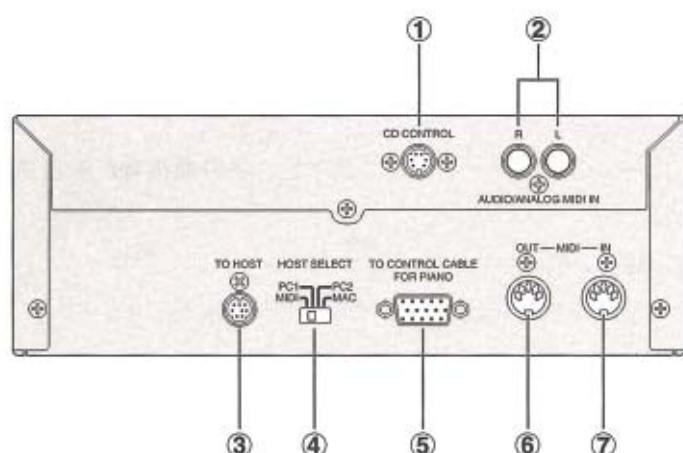
必ずお読みください

コントロールユニット (フロントパネル)



- ① [電源ボタン]
電源のオン／オフをします。
- ② [リモコン受光部]
リモコン使用時は、リモコンの先端をこの部分に向けて操作します。
- ③ [ディスプレイ]
曲番号や曲のタイトル、機能の設定など様々なメッセージを表示します。
- ④ [ドライブインジケータ]
[セレクトボタン]によって選択したドライブを表示します。
- ⑤ [ドライブセレクトボタン]
ドライブを選びます。ボタンを押すたびに、メモリディスク (0～9、A～F)、フロッピー、CDが順に選べます。
- ⑥ [CDドライブ]
付属のCDや一般のオーディオCD等をセットします。
- ⑦ [CD取り出しボタン]
CDドライブを開けるためのボタンです。
- ⑧ [フロッピーディスクドライブ]
フロッピーを使う場合はここに挿入します。
- ⑨ [フロッピー取り出しボタン]
フロッピーを取り出すためのボタンです。
- ⑩ [プレイ／ポーズボタン]
再生のスタートや一時停止 (ポーズ) の時に押します。
- ⑪ [ストップボタン]
演奏や録音を停止する時に押します。
- ⑫ [録音ボタン]
録音待機の状態になります。
- ⑬ [選曲／早戻し・早送りボタン]
選曲や早戻し／早送りをする時に押します。
- ⑭ [パートセレクトボタン]
LR対応曲で、キャンセルしたいパートを選びます。再生時は緑に、録音時は赤く点灯します。
- ⑮ [セットボタン]
機能・設定項目・設定値を確定します。
- ⑯ [音色ボタン]
内蔵電子音源 (XG 音源) の機能呼び出します。
- ⑰ [カーソルボタン] \leftarrow / \rightarrow
機能・設定項目の選択、タイトル入力時のカーソル移動、ディスプレイの次画面呼び出す時等に使います。
- ⑱ [機能ボタン]
様々な機能呼び出します。
- ⑲ [メトロノームボタン]
メトロノーム機能を使う時に押します。
- ⑳ [セレクトボタン]
押すたびに “音量→テンポ→移調→バランス (→音量 …)” の順で各機能呼び出します。
- ㉑ [－/NO ボタン] [＋/YES ボタン]
機能を設定する時に、設定する値を入力します。
- ㉒ [音量表示ランプ]
音量やメトロノームのテンポを表示します。
(テンポに合わせてランプが点滅します。)

コントロールユニット (リアパネル)



① [CD CONTROL 端子]

専用ケーブルでピアノと接続します。移動や引っ越し等の理由でケーブルをはずし、再度接続される際は、左下の [TO HOST 端子③] と端子部の形状が似ていますのでお間違いのないようご注意ください。

② [AUDIO/ANALOG MIDI IN (※) 端子]

アナログMIDIを外部機器 (CDプレーヤー、CDチェンジャー等) とつなぐ際に使用します。

※「ANALOG MIDI」: MIDI (デジタル) 信号をヤマハ独自の技術でオーディオ (アナログ) 信号に変換したものです。

③ [TO HOST 端子]

コンピュータと接続する際に使用します。

④ [HOST SELECT スイッチ]

コンピュータと接続した際に、接続したコンピュータの種類を選びます。

⑤ [TO CONTROL CABLE FOR PIANO 端子]

専用ケーブルでピアノと接続します。コネクタの向きを合わせてしっかり差し込み、ドライバーで両端のネジを回して固定してください。

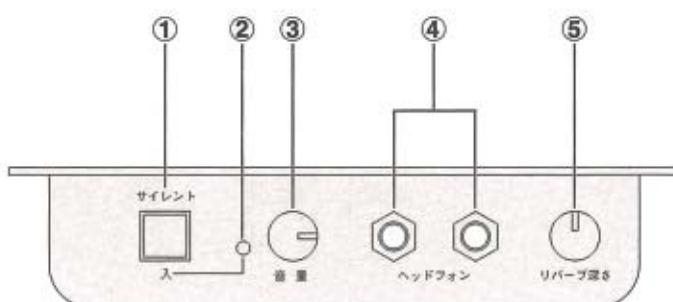
⑥ [MIDI OUT 端子]

外部MIDI機器との接続に使用します。

⑦ [MIDI IN 端子]

外部MIDI機器との接続に使用します。

スイッチボックス



① [サイレントボタン]

消音演奏をする際に押します。ピアノの音を消してピアノ電子音で演奏できます。

② [サイレントインジケータ]

サイレント使用時にランプが点灯します。

③ [音量ツマミ]

スピーカーからでる音の音量を調節します。またサイレント使用時に、ヘッドフォン端子で聴くピアノ電子音および内蔵電子音源の音量を調節します。

④ [ヘッドフォン端子]

付属のヘッドフォンや市販のヘッドフォンを接続します (ステレオフォーンジャック)。サイレント使用時にピアノ電子音による演奏を聴くことができます。また、内蔵電子音源 (XG音源) による演奏や自動演奏も聴けます。ヘッドフォンを接続すると自動的にスピーカーの音は出なくなります。

⑤ [リバース深さツマミ]

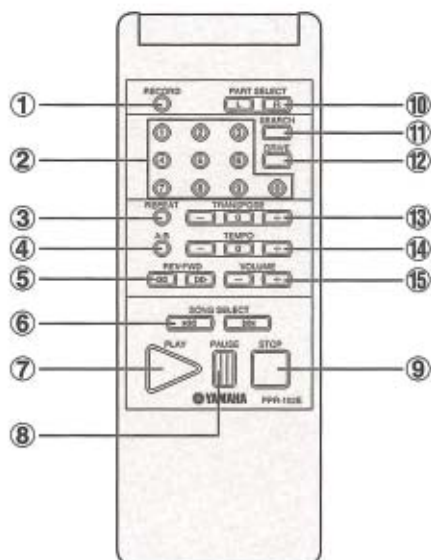
ピアノ電子音に対する残響効果のかかり具合を調節します。

各部の名称と機能

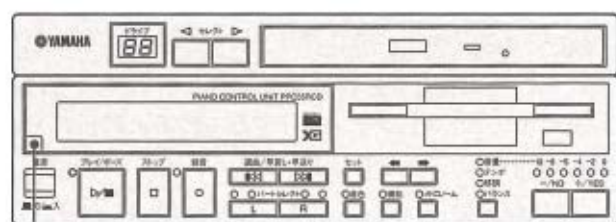
必ずお読みください

リモコン

★リモコンのみで操作可能です。



●リモコンの先端を、本機のフロントパネルの受光部に向けて操作してください。



リモコン受光部

●リモコンに使用する乾電池は、単3×2本です。

裏面のバッテリーカバーをはずします。

電池ケース内の指示通りに＋と－を正しくセットします。



バッテリーカバーを元に戻します。

●電池交換について

リモコンで操作できる距離が短くなってきたら、電池を交換してください。
同じタイプの電池を2本同時に交換してください。
リモコンを長時間使用しない場合は、液もれを防ぐため、電池を出して保管してください。

① [録音ボタン]

録音待機の状態になります。

★② [テンキー]

1～0の数字キーを使って聴きたい曲の曲番号が直接選べます。

★③ [リピートボタン]

リピート機能(全曲・1曲・ランダム)が選択できます。

★④ [A-Bボタン]

リピート機能(A-Bリピート、リターン&ストップ、ダイレクトサーチ)で、繰り返しの開始・終了ポイントを指定します。

⑤

[早戻し・早送りボタン]

早戻し・早送りをする時に押します。

⑥

[選曲ボタン]

選曲のための専用ボタンです。

⑦

[プレイボタン]

演奏を再生します。録音のスタートにも使います。

⑧

[ポーズボタン]

演奏を一時停止(ポーズ)します。

⑨

[ストップボタン]

演奏を停止させる時などに使います。

⑩

[パートセレクトボタン]

LR対応曲で、キャンセルしたいパートや録音するパートを選びます。

★⑪

[サーチボタン]

曲中の頭出しを行うサーチ機能进行操作します。

⑫

[ドライブボタン]

ドライブを選びます。ボタンを押すたびに、メモリディスク(0～9、A～F)、フロッピー、CDが順に選べます。

⑬

[移調ボタン]

移調を設定する専用ボタンです。

⑭

[テンポボタン]

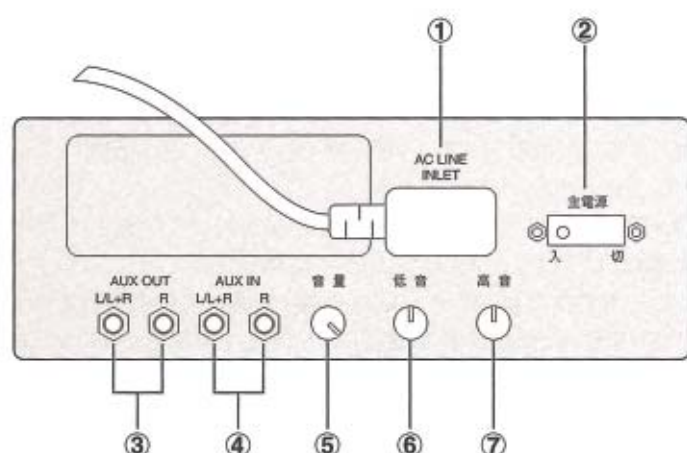
テンポを調節する専用ボタンです。

⑮

[音量ボタン]

音量を調節する専用ボタンです。

アンプユニット



① [AC LINE INLET (電源) 端子]

② [主電源スイッチ]

電源のオン/オフをします。

③ [AUX OUT 端子]

外部オーディオ機器やPA機器等で音を聴く際に、この端子と接続します。

④ [AUX IN 端子]

外部オーディオ機器の音を本機で聴く際に、この端子と接続します。

⑤ [音量ツマミ]

本機のスピーカーやAUX OUT端子に接続した外部スピーカー等の音量を調節します。

⑥ [低音ツマミ]

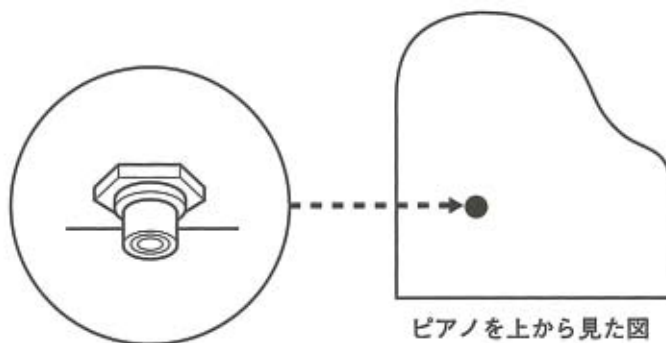
スピーカーから出る音の低音を調節します。
[AUX IN端子]に接続した外部オーディオ機器の音も調節できます。

⑦ [高音ツマミ]

スピーカーから出る音の高音を調節します。
[AUX IN端子]に接続した外部オーディオ機器の音も調節できます。

フットコントローラー端子

ピアノ本体の下側に付いています。別売のフットコントローラーまたはフットスイッチを接続します。使用できるフットコントローラー/フットスイッチおよび機能は下記のとおりです。



フットスイッチ
FC4 (¥3,000・税別)



フットスイッチ
FC5 (¥1,500・税別)



フットコントローラー
FC7 (¥6,000・税別)



	FC4/FC5	FC7	
再生	○	テンポ ○ 調節に 連動	[プレイ/ポーズボタン] と同じ働き
再生	—	指定テンポに 対して 30~100%	踏み込むとコントロールユ ニットで設定したテンポで 再生、戻すと遅くなる
録音	○	○	[プレイ/ポーズボタン] と同じ働き

本機には3つのドライブがあります

よりよくご利用いただくための基礎知識

本機には大きく分けて3つのドライブがあります。“ドライブ”とは、演奏の記録や再生に用いるディスク(メディア)を使うための装置のことです。コンピュータでは、CD-ROMを使うための装置をCD-ROMドライブ、フロッピーディスクを使うための装置をフロッピーディスクドライブと呼びますが、本機のドライブもそれと同じものです。本機ではメモリディスク/フロッピー/CDの3つのディスクを使うことができ、それぞれのディスクごとに専用のドライブを持っています。

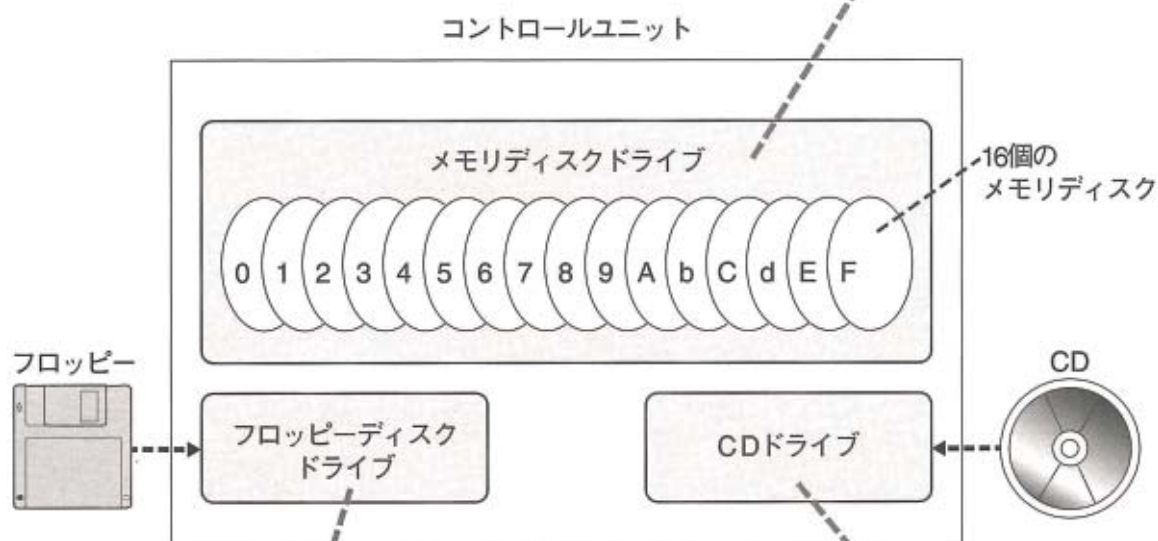
メモリディスクドライブ

●メモリディスクを使用するためのドライブです。コントロールユニットの本体に内蔵されているため、フロッピーディスクドライブやCDドライブのように外からは見えません。またメモリディスクはフロッピーやCDのように取り出すことはできません。

●メモリディスクは、ディスクという名前が付いていますが、実際には“フラッシュメモリ”という半導体を使っており、フロッピーやCDのようにディスク(円盤)が入っているわけではありません。また演奏を録音したり再生する場合、フロッピーやCDのようにドライブにセットする必要もありません。

●メモリディスクドライブは全部で16個(0~9、A~F)用意されており、演奏や録音の時に好みのメモリディスクを選ぶことができます。

●メモリディスクのメモリー容量は、16個の総計で16メガバイトを確保しています。これは2HDタイプのフロッピーの約16倍に相当します。



フロッピーディスクドライブ

●パソコンなどでおなじみのフロッピーを使用するためのドライブで、コントロールユニットのフロントパネルに設けられています。

●フロッピーディスクドライブにフロッピーを挿入することで、演奏を録音したり再生することができます。またフロッピーの曲をメモリディスクにコピーしたり、逆にメモリディスクの曲をフロッピーにコピーして保存しておくこともできます。

●本機のフロッピーディスクドライブは、2HDと2DDの2種類の3.5インチフロッピーディスクに対応しています。

CDドライブ

●CD(コンパクトディスク)を使用するためのドライブで、コントロールユニットのフロントパネルに設けられています。

●本機は、付属のCD(ピアノソフトプラスオーディオ)や一般のオーディオCDの再生に対応しています。

●CDに演奏を録音することはできません。

[参照ページ]

●ドライブの選び方(P31) ●メモリディスクとフロッピーの使いこなしについて(P22)

“フォーマット”という言葉には3つの意味があります

よりよくご利用いただくための基礎知識

曲のフォーマット

●曲をメモリディスクやフロッピーに録音する際の記録形式のことを「フォーマット」と言います。一般的には「ソングファイルのフォーマット」と呼ばれています。

●本機で扱えるのは次の3種類のフォーマットです。

(1) スタンダード MIDI ファイル・フォーマット 0 (ディスプレイに「S0」と表示されます)

(2) スタンダード MIDI ファイル・フォーマット 1 (ディスプレイに「S1」と表示されます。再生のみ可能です。トラックチャック数17まで再生します)

(3) E-SEQ ファイル (ディスプレイに「ES」と表示されます)

※チャックとは：SMFは、ヘッダー情報やトラックデータなどいくつかのブロックで構成されています。そのブロックをチャックといいます。

●スタンダード MIDI ファイルのフォーマット 0 形式の曲のことを本書では「SMF 曲」と呼び、SMF タイプにフォーマットされたディスクに録音します。スタンダード MIDI ファイルは、パソコン用の音楽ソフトで作成される曲とも互換性があり、現在もっとも広く使われている形式です。

●E-SEQ ファイル形式の曲のことを本書では「E-SEQ 曲」と呼び、E-SEQ タイプにフォーマットされたディスクに録音します。E-SEQ ファイル形式は、従来のサイレントアンサンブルピアノやピアノプレーヤとの互換性を重視した形式です。これらの機種でも使用するためには、2DD フロッピーを E-SEQ タイプにフォーマットしてください。

音源のフォーマット

●電子音源 (デジタル音源) 機器の音源の規格のことを「音源フォーマット」と言います。コンピュータ音楽などでもよく使われる言葉です。

●本機のアンサンブルパート用の電子音源はヤマハ独自の「XG フォーマット」を採用しています。XG フォーマットを採用した音源のことを「XG 音源」と言います。

●XG フォーマットは、デジタル音源の世界標準規格である「GM」を拡張したもので、高品位かつ豊かな表現力と多彩な音色数が特長です。現在、サイレントアンサンブルピアノをはじめ、コンピュータ音楽用の音源やシンセサイザー、電子ピアノなどに幅広く採用されています。

●XG フォーマットは他機種との互換性がありますので、コンピュータ音楽用に作った XG フォーマットの演奏データを本機で再生したり、またその逆も可能です。

●「GM」はデジタル音源の標準規格。異なるメーカー間でもデータの互換性があるため、市販のデータ曲や他の機種で作成したデータ曲をメーカーや機種の区別なく再生可能です。

●XG フォーマットはこの GM に対して上位互換性があるため、GM の曲データを本機で再生することも可能です。

フロッピーのフォーマット

●新しいフロッピーはそのままでは本機で使用できません。本機で使えるようにする操作のことを「フォーマット」(または「初期化」)と言います。

●すでに演奏データ (曲) の入ったフロッピーを再度フォーマットすることができますが、そうすると演奏データはすべてなくなってしまいます。逆に言えば、すべての曲を消去するためにフォーマットの機能を使うこともできます。

●本機で使用できるフロッピーは「3.5」の 2HD または 2DD ですが、本機でフォーマットすると 2HD の場合は 1.44MB タイプに、2DD の場合は 720KB タイプに初期化されます。

●ディスクタイプ (メモリディスクやフロッピーを本機で

使用する時の形式) を初期化することも「フォーマット」と呼び、「SMF タイプ」(初期値) と「E-SEQ タイプ」の 2 種類から選択できます。

●「SMF タイプ」とは「スタンダード MIDI ファイル形式」の曲を記録するためのディスクフォーマット、「E-SEQ タイプ」とは「E-SEQ ファイル形式」の曲を記録するためのディスクフォーマットです。

●フロッピーのフォーマット時に「SMF タイプ」を選ぶと、新たに曲を録音する時に自動的にスタンダード MIDI ファイルのフォーマット 0 形式になります (メモリディスクは工場出荷時に SMF タイプにフォーマットされています)。

●メモリディスクは工場出荷時にあらかじめ SMF タイプにフォーマットされていますが、再フォーマットすることも可能です。

[参照ページ]

●新品のフロッピーを本機で使えるようにする (P48) ●曲のフォーマット (E-SEQ ↔ SMF) を変更する (P130)

●フロッピーのタイプ (E-SEQ ↔ SMF) を変換して別のフロッピーにコピーする (P132)

メモリディスクとフロッピーの使いこなしについて

よりよくご利用いただくための基礎知識

録音できる2種類のディスク

- 本機には、演奏データ(曲)を2種類のディスクに記憶できます。
- 1つが本機の中に内蔵された「メモリディスク」です。もう1つが、ワープロやパソコンでおなじみの「フロッピー

ーディスク」です。それぞれの特長をご理解のうえ、両者を組み合わせてご使用ください。

- なお、この取扱説明書では、フロッピーディスクは「フロッピー」と表記しています。

メモリディスクとフロッピーの違い

[メモリディスク]

- メモリディスクは本体に内蔵されており、録音や再生のたびに、フロッピーのようにセットする手間がありません。電源を切ってもメモリディスクの中の演奏データが消えることはありません。
- なお、ディスクという名称がついていますが、フラッシュメモリという一種の半導体を使用しており、フロッピーのように磁性体を塗ったディスク(円盤)が入っているわけではありません。

[フロッピー]

- フロッピーは、メモリディスクと違って本体とは独立していますから、演奏データを持ち運んだり、他の人に渡したり、別の楽器で再生したり、分類・保管したり、またパソコンのフロッピーディスクドライブにセットするのに便利です。
- なお、本機でご使用いただけるフロッピーは、3.5"の2HDまたは2DDフロッピーディスクです。

メモリディスクとフロッピーの使い分け

- ふだんの録音にはメモリディスクをお使いになると便利です。保存や選曲などもスピーディです。まずメモリディスクに録音しておき、たまってきたら曲コピーでテーマごとにフロッピーに整理・保存し(メモリディスク内の不要な曲は曲消去します)、必要に応じてフロッピー内の曲順を曲並び替えで入れ換えます。
- 逆に、複数のフロッピーや市販ソフトからメモリディス

クに曲をコピーし、聴きたい曲だけを好きな順番に並べたオリジナルプログラムを作成しておく使い方もあります。フロッピー入れ換えの手間が省けますし、うっかり別の曲を再生してしまうこともありませんから、パーティーやイベントがスマートに行えます(市販ソフトからメモリディスクへのコピーは可能ですが、さらにメモリディスクからフロッピーへコピーすることはできません)。

2HDと2DDのフロッピー(旧機種とのやりとり)

- 本製品に使う3.5インチ・フロッピーディスクには、容量の違いで、2HDと2DDの2種類があります。2HDは2DDの約2倍のデータを記録できます。2HDは消去防止以外にもう1つ穴があいており、2DDと区別できます。
- 2HDと2DDのいずれも同じように使うことができます

が、いくつか注意が必要です。旧機種のサイレントアンサンブルピアノやピアノプレーヤで使えるのは2DDのみです。これらの機種とフロッピーのやりとりをする場合は、2DDをE-SEQタイプにフォーマットして使います(2HDと2DDの間で曲コピー、ディスクコピーは可能です)。

自分で録音した曲に名前を付けましょう

- 録音を行うと仮の名前がセットされますが、内容がよく分かるようタイトル入力で題名を付けておきましょう。最大32文字までOKですから、曲名だけでなく、演奏者や録音日なども書き込めます。
- 挿入時に表示される、フロッピーのタイトルもぜひ入力しましょう。プレゼントのフロッピーにメッセージを入

れておくのもアイデアです。

- 大切な演奏の記録を保管したフロッピーは、ディスクコピー時などにうっかり内容を消してしまわないよう、消去防止をオンにしておきます。
- フロッピーのラベルには、ディスクタイプも記入しておきましょう。

[参照ページ] ●ドライブの選び方(P31) ●メモリディスクの曲を複製する(P118) ●フロッピーの曲を複製する(P120)

●録音した曲を好きな順番に並び替える(P122) ●1個のメモリディスク全体をコピーする(P124)

●フロッピー全体をコピーする(P126) ●録音した曲やメモリディスク/フロッピーに名前を付ける(P102)

LR 録音機能をレッスンに活用しましょう

よりよくご利用いただくための基礎知識

●LR 録音した曲は、1 曲の中に L、R の 2 つのピアノパートが録音されています。LR 録音対応ソフトや LR 録音した曲が選曲されると、[パートセレクトボタン] が 2 つとも緑に点灯します。

L	Left (左手)	低音側・ピアノ左手パート
R	Right (右手)	高音側・ピアノ右手パート

●2 つのピアノパートを別々に再生できるのがパートキャンセル機能。ふつうの録音でピアノパートを録った曲は 1 パートしかないの、パートキャンセルできません。

●LR 録音なら、連弾曲をひとりで仕上げたり、左手だけ集中練習したりと、使いこなしもいろいろ。演奏のデータはフロッピーで持ち運びできるので、遠いところに住んでいる方との合奏なども楽しめます。

ペダル	ロクオン	OFF	鍵盤演奏	1 回目の演奏+2 回目の演奏
			ペダリング	1 回目のペダリング
ペダル	ロクオン	ON	鍵盤演奏	1 回目の演奏+2 回目の演奏
			ペダリング	2 回目のペダリング

●2 つのパートを別々に録音する時、L、R どちらのパートから先に録ってもかまいません。ペダリングは 1 パート目に録音されますが、2 パート目で録音し直したい場合は、「LR セットアップ」(P85 参照)を使います。

●LR 録音してしまってから、再録音で 1 パートだけ録音し直すこともできます。再録音を行う場合は、L、R どちらのパートを直すのかを指定しないと、右の表示になります。直したい方の [パートセレクトボタン] を押して、赤く点灯させれば、引き続き操作できます。

ロクオン トラックヲ エランテ* クタ* サイ

録音

●音域を分けずに録音……………



●音域を分けて録音……………



再生

●L パートをキャンセル……………

(L パートキャンセル)

R パート再生

●R パートをキャンセル……………

L パート再生

(R パートキャンセル)

[参照ページ]

- 左手・右手のピアノパートを別々に録音する (P80)
- 音域を分けて左手・右手のピアノパートを同時に録音する (P84)
- 録音済みのペダル効果を録り直す (P85)

内蔵の電子音源について

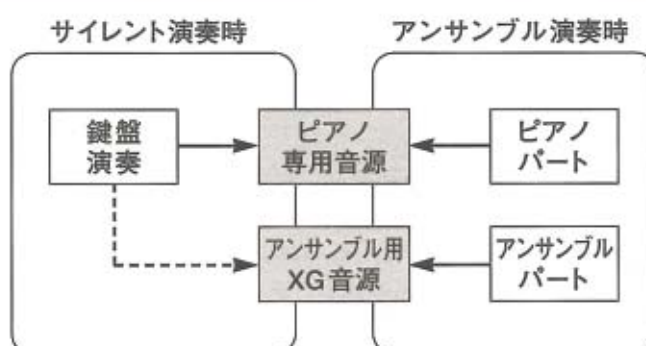
よりよくご利用いただくための基礎知識

本機は2種類の電子音源を内蔵しています

●本機には「ピアノ専用音源」と「アンサンブル用XG音源」の2種類の電子音源が内蔵されています。

●「ピアノ専用音源」は、サイレント（消音）時のピアノ演奏や、アンサンブル曲再生時のピアノパートの自動演奏に使用します。

●「アンサンブル用XG音源」は、アンサンブル曲の再生時に、ピアノパート以外のアンサンブルパートの演奏に使用します。またピアノの鍵盤を弾いて鳴らすこともできます（「音色機能」P37参照）。



豊富な音色を内蔵したアンサンブル用XG音源

ノーマル音色	基本音色	128種類	音階を持つ楽器音、効果音。 GM規格に準拠。
	拡張音色	310種類	基本音色に対する バリエーション音色。 XGフォーマット準拠。
	SFX音色	42種類	特殊効果音。 XGフォーマット準拠。
ドラム音色	リズムキット	9種類	音階を持たない打楽器音の セット。 XGフォーマット準拠。
	SFXキット	2種類	SFX音色をリズムキットの ように組み合わせたセット。 XGフォーマット準拠。

●アンサンブル用XG音源はGM/XGフォーマットに準拠した豊富な音色を持っています。鍵盤演奏や録音・再生に使用できる音色は表の通りです。

●「基本音色」は楽器音や効果音が128種類（8音色×

16グループ）あり、1～128番の番号と名前が付いています。

●「拡張音色」はXGフォーマットならではのバリエーション音色です。

●リズムパート用の「ドラム音色」（リズムキット）も豊富に内蔵されています。基本音色128番の次を選ぶと「スタンダードキット」が呼び出されます。

Voice▶001<StandKit>[GM]
Vol=100

●ドラム音色は様々な打楽器を組み合わせたドラムセットのようなものです。1つの音色でありながら、C1はバスドラム、D1はスネアドラム…と、鍵盤1つ1つに別々の打楽器が割り当てられています。電子ドラムのセット（25番、エレクトロキット）やジャズ用のバリエーション（33番、ジャズキット）など9種類があります。

●また、本機には特殊効果サウンド（「SFXキット」「SFX音色」）も豊富に内蔵しています。

アンサンブル用XG音源の音色の選び方

●音色モードに切り換えると、内蔵音源の音色を確認できます。停止中／再生中に「音色ボタン」を押すと、ディスプレイが次の表示になります。

Voice▶001<GrandPno>[GM]
Vol=100

●[－/NOボタン][+/YESボタン]で好きな音色が選べます（拡張音色の選び方はP37参照）。鍵盤を弾いて音色を確かめてみてください。

●アンサンブル用XG音源は、コンピュータのシーケンスソフトなどMIDIデータで設定できる音色も内蔵しており、トータルで676ノーマル音色＋21ドラム音色が用意されています。

[参照ページ]

●ピアノで内蔵電子音源(XG音源)の音色を使って演奏する(P37) ●ピアノパートを別の音色で再生する(P74)

●アンサンブル曲を録音する(P88) ●内蔵電子音源(XG音源)の音色一覧表(P164-167)

アンサンブル曲とは

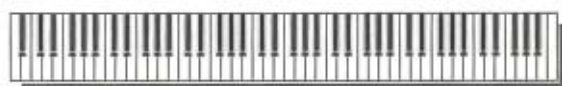
よりよくご利用いただくための基礎知識

ピアノパートとアンサンブルパート

●「アンサンブル曲」とは、『ピアノパートとそれ以外の楽器パート（アンサンブルパート）を持った曲』のことです。例えば、ピアノ／ベース／ドラムスのピアノトリオ曲、ピアノと弦楽四重奏のピアノ五重奏曲、ピアノとビッグバンド、ピアノとオーケストラなど、さまざまな編成のアンサンブル曲が楽しめます。「ピアノソフトプラス」などの市販アンサンブル用ソフトや、本機に付属の「ピアノソフトプラスオーディオ」のCDをリスニングするだけでなく、自分でアンサンブル曲を録音し、再生することもできます。

●本機ではこのアンサンブル曲が1台で楽しめます。ピアノパートをピアノ（またはピアノ電子音源）が担当し、アンサンブルパートをアンサンブル用XG音源が担当します。

●ピアノ用のパートはピアノが、アンサンブルパートは内蔵電子音源（XG音源）が発音

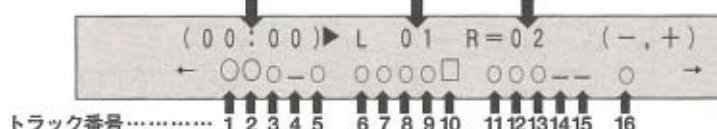


アンサンブル曲用の16トラックがあります

●本機には、アンサンブル曲の楽器パートを記録しておく場所が16トラックあります。トラックとは演奏を記録しておくための場所で、16段の楽譜のように考えることもできます。

●トラック表示画面

曲の経過時間 (分・秒または小節・拍) ピアノ再生(L)するトラック番号 ピアノ再生(R)するトラック番号



●音色表示画面

トラック番号 音色番号 音色名 音量



○.....ピアノ再生パート

○.....アンサンブルパート

□.....リズムパート(通常、トラック10)

—.....演奏が入っていない

※録音時には、録音トラックが●や■で表示されます。

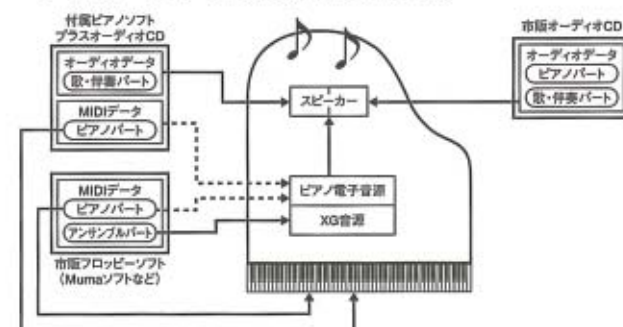
XG音源の伴奏とオーディオの伴奏

●市販のソフト<ピアノソフトプラス>と付属のCD<ピアノソフトプラスオーディオ>はどちらも、アンサンブル曲が楽しめるデータを収録しています。

●両方のソフトともに、ピアノパートの演奏はピアノ（またはピアノ電子音源）が担当しますが、アンサンブルパート（伴奏）の再生の仕方に違いがあります。

●<ピアノソフトプラス>では、アンサンブルパートを内蔵のXG音源が担当します。これに対して<ピアノソフトプラスオーディオ>では、アンサンブルのデータが一般のオーディオCDと同じオーディオデータになっています。このた

め、内蔵のXG音源ではなく、CDを再生するのと同様にオーディオデータがそのまま再生されます。



[参照ページ]

- ピアノパートとアンサンブルパートの音量バランスを調節する (P73)
- アンサンブルパートをピアノで再生する (P76)
- ピアノパートを別の音色で再生する (P74)
- アンサンブルパートの音色・音量を変更する (P75)
- アンサンブル曲を録音する (P88)
- アンサンブルパートをピアノパートに変更する (P98)
- リズムパートを録音する (P94)

トラック、パート、チャンネルとは

よりよくご利用いただくための基礎知識

トラック

●「トラック」は、陸上競技の走路のように帯状のものを指す言葉で、転じて「カセットテープはステレオで往復だから4トラック」と、録音テープの記録部分に使われるようになりました。つまり演奏を記録したり再生したりする場所のようなものです。

●本機にはこれが16トラックあるとお考えください。1回の録音で、1つのトラックを選び、そこに1パート記録します（LRスプリット録音を除く）。

パート

●「パート」とは、一つの楽器（または弦楽器のような一つのセクション）の演奏のことです。

●本機には特にピアノ用のパートがあり、LR録音では、LパートとRパートに分けて記録し、ピアノ本体またはピアノ電子音源（サイレント時）を自動演奏させるために使われます。

●ピアノ以外のパートはアンサンブルパートと呼び、内蔵電子音源（XG音源）を発音させるのに使います。パートはいわば用途（楽器演奏）を表す言葉です。

チャンネル

●トラックに記録された音符などのデータをパートに結び付けるのが「チャンネル」の役目です。

●MIDIの世界では、バイオリンに使うドなのか、フルートに使うドなのか区別できるよう、録音時に音符の1つ1つに目印となる番号が付けられます。MIDIには16のチャンネルがあります。

トラック／パート／チャンネルの関係

●本機では、これらの関係を分かりやすくするため、トラック1はチャンネル1、トラック2はチャンネル2……と、トラック番号とチャンネル番号が同じになっており、トラック1と2はピアノのLパート、Rパート、トラック3～9とトラック11～16はアンサンブルパート用、トラック10はリズムパート用です（E-SEQ曲の場合はトラック3はハーフペダル用）。

●内蔵電子音源（XG音源）では16のトラックに対応した16種類の音色が同時に発音可能です（ふだんはピアノパートはピアノ本体またはピアノ電子音源（サイレント時）が発音します）。再生が始まると、各パートは同じチャンネル番号の音色番号と音符データを受けて、音色を選び演奏を開始します。

●本機で録音した場合の初期値

SMF 曲			
トラック	パート	チャンネル	発音
1	ピアノLパート (ハーフペダル)	1	ピアノ (ピアノ電子音源)*
2	ピアノRパート (ハーフペダル)	2	
3～9	アンサンブルパート	3～9	内蔵電子音源 (XG音源)
10	リズムパート	10	
11～16	アンサンブルパート	11～16	

E-SEQ 曲			
トラック	パート	チャンネル	発音
1	ピアノLパート (スイッチペダル)	1	ピアノ (ピアノ電子音源)*
2	ピアノRパート (スイッチペダル)	2	
3	ハーフペダル	3	ペダル
4～9	アンサンブルパート	4～9	内蔵電子音源 (XG音源)
10	リズムパート	10	
11～16	アンサンブルパート	11～16	

※ サイレント時

*ピアノパートの初期値は、表のようにトラック1と2になっていますが（E-SEQ曲と同じ）、変更も可能です。また、一般的にスタンダードMIDIファイルのピアノパートがトラック1と2であるということもありません。

[参照ページ]

●ピアノパートを別の音色で再生する（P74） ●アンサンブルパートをピアノで再生する（P76）

●アンサンブルパートをピアノパートに変更する（P98）

本機で再生できるソフトについて

よりよくご利用いただくための基礎知識

フロッピー

●本機では幅広いジャンルのソフトが利用できます。一流ピアニストの名演奏、さまざまなジャンルの名曲をご家庭で楽しめるリスニング用ソフトはもちろんのこと、ピアノ演奏をバックアップするレッスンや練習用のソフト、そして内蔵音源の多彩な音色を活用したアンサンブルソフトまで、ワイドなラインナップを取りそろえています。

●＜ピアノソフト＞シリーズ

クラシック、ジャズ、ポピュラー、カラオケ伴奏など多彩なジャンルのピアノソロデータソフト。数千曲にのぼる豊富なレパートリーを集めました。

●＜ピアノソフトプラス＞シリーズ

オーケストラやビッグバンドのパートも収録されたアンサンブル曲のソフト。クラシック、ジャズ、ボサノバなど、迫力のライブ演奏をお楽しみください。

●月刊「Piano」の演奏データ

最新ヒット曲を楽しんでいただくのに最適のアンサンブル曲のソフト。毎月新しいタイトルが5曲ずつ加わります。

※以上のソフトはヤマハの音楽データ店頭販売システム「ミューマ」でもお買い求めいただけます。

●＜レッスンライブラリー＞シリーズ

ピアノ教室でもご利用いただけるレッスンソフト。自動演奏システムの特長をレッスンに生かしたオリジナルの教材で、楽譜と解説が付いており、多くのピアノの先生方に愛用されています。

※ピアノソロデータです(一部アンサンブル曲もあります。)

●＜ピアノアンサンブル＞シリーズ

楽譜とフロッピーがセットになったソフト。譜面を見ながらデータに合わせて演奏したり、模範となる演奏を聴いたり、さまざまな楽しみ方を発見していただけます。

●どのソフトも、好みに合わせて音量・移調・テンポなどが調節できます。

●ソフトには、いろいろな再生機能に対応したタイプがあります。＜LR対応ソフト＞は「パートキャンセル機能」を使ってL(左手・低音側)、R(右手・高音側)を別々に再生できるタイプのソフト。ミュージックスタディ・シリーズやレッスンライブラリー、連弾曲などに採用しています。

●楽しい＜カラオケ・シリーズ＞のレパートリーも、ナツメロから最新ヒット曲までワイド。移調機能を使ってご自分のキーに合わせてたり、スローなテンポにしたり…。思いのままの伴奏が作れます。

〔本機に対応しているパッケージソフト〕

- 「ピアノソフト」●「ピアノソフトプラス」
- 「楽譜対応ミュージックデータシリーズ」
- 「レッスンライブラリー」
- 「ピアノアシエディスク (Piano Soft Plus)」
- 「ピアノアシエディスク (DOC、SMF/XG)」(※)
- 「ピアノアンサンブル (Piano Soft Plus)」
- 「ピアノアンサンブル (DOC)」(※)
- 「XG for Piano」(※) ●「Cue TIME」
- 「輸入版ディスクオーケストラコレクション」(※)
- 「伴奏くんレパートリー・楽器で歌おう」(※)
- 「フルートレパートリー」「スーパーレパートリー」(※)
- 「アメージングソロ」「ミュージックツリー」

「アルフレッド・ピアノライブラリー」

※:ピアノパートの音色、リバーブ、エフェクト等がオリジナル通りに再生できない場合があります。

〔本機に対応している Muma ソフト〕

- 「ピアノソフト」
 - 「ピアノソフトプラス」
 - 「クラビノーバ・ディスクオーケストラコレクション」(※)
 - 「月刊ピアノ (ピアノソフトプラス用)」
 - 「月刊ピアノ (クラビノーバ用/伴奏くん用)」(※)
 - 「XGソングデータライブラリー」(※)
 - 「楽器練習用・大正琴練習用・吹奏楽練習用 SMF/XG データ」(※)
 - 「楽譜対応ミュージックデータシリーズ SMF/XG データ」(※)
 - 「ミュージックセールス・グレード試験対応 SMF/XG データ」(※)
 - 「歌楽ソフト」(※) ※歌詞表示はできません。
- ※:ピアノパートの音色、リバーブ、エフェクト等がオリジナル通りに再生できない場合があります。

CD

●本機はCDドライブを内蔵していますので、CDを利用することもできます。

●付属の＜ピアノソフトプラスオーディオCD＞のほか、一般のオーディオCDも再生できます。

〔参照ページ〕

●フロッピーの曲を再生する (P39) ●付属のピアノソフトプラスオーディオCDを再生する (P42)

操作ページの見方

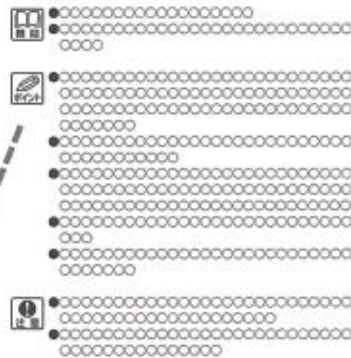
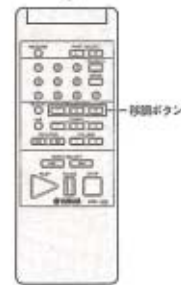
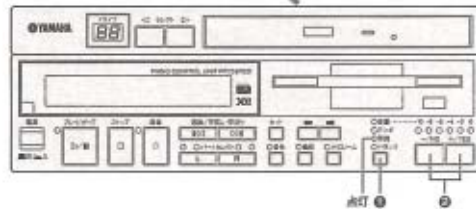
フロントパネルでの操作を示します。番号にそって、
ボタンを押してください。
ボタンを押すとランプが点灯する場合は「点灯」、
ランプが点滅する場合は「点滅」と記載しています。

リモコンでの操作を示します。

機能の名前を
記載しています。

移調して再生するには

■移調調節



機能内容、機能の設定範囲などを説明しています。



操作上のポイントをあげ、手順を補足説明しています。



操作上の注意をあげました。必ずお読みください。

フロントパネルでの操作図の番号に対応して、操作の
流れを説明しています。

ボタンを押すと現れるディスプレイの表示内容を記載
しています。